

🐟九月四日、一学期始業礼拝の日です。みなさんお元気でしたか。本来、今から百年前の九月一日に起きた「関東大震災」のお話をするべきところですが、十万人以上の方が亡くなったとか、重苦しい話を学校が始まる初日にするのも考えものです。

本日午後から行われる、引き取り訓練の際に、「関東大震災」のように大きな災害が起きた時のことを考えながら行動していただくことにして、今から重くて軽い話をします。

今日九月四日は、語呂合わせから、髪をとかす「くし」の日とか「クジラの日」と言われているようです。そこでクジラの話。君たちは、クジラの別名を知っていますか。大人に聞いてもなかなか正解が返ってこない質問なので、答えをお教えしましょう。勇気の「勇」に「魚」と書いて「勇魚Ⅱいさな」と言います。昔の人たちはクジラを魚だと思つて、勇ましい魚と名付けたようです。

昔、むかしのこと。紀州灘（今の和歌山県の近く）に住んでいた勇魚の親分が、子分のブリやマグロを引き連れて、江戸に旅してきました。それを迎えた江戸の魚たち。

「勇魚の親分、ようこそ江戸へ。長旅お疲れ様です。お腹はすいてやしませんか。」と、タコやアナゴが聞きました。「道中、小魚をたくさん食べながら来たから、腹はすいておらん。しいて言うなら、江戸名物の『そば』というものが食いたい。」

それを聞いたハゼが、「お安い御用だ！」と、出かけようとしたところ、勇魚の親分は慌ててハゼを引き止めて、「おくい、ハゼどん。そばはそばでも、必ず『かけ』にしてくれ。『もり』は御免だ。」

この話を大人にしても、キョトンとする人が多いので、解説が必要でしょう。おそば屋さんで温かいつゆがかけられているそばを「かけそば」と言いますね。つゆが「かけ」である「そば」なので「かけそば」。盛り付けてあつて、つゆにつけて食べるそばを「もりそば」と呼びます。ここまでは大丈夫かな。

次、昔、クジラをとるときに使っていた道具を「モリ」と言います。「やり」を太くして巨大にしたものを想像してください。それでクジラを捕っていました。つまりクジラは「モリ」が大嫌い。という訳で、勇魚はハゼどんに、もりそばの「もり」と「モリ」をかけた、「もりは御免だ。」と言ったという笑い話。重いクジラの軽い話ということです。



ちなみに、「鯨幕」って知っていますか。

お葬式の式場に張られている黒と白の幕の事です。昔はめでたい式にも使っていたようです。クジラの背中が黒く腹が白いことや、クジラの皮が黒く、脂肪が白いことから「黒白」でクジラが連想され、「鯨幕」と言われるよ

うになったようです。オツといけない。お葬式なんて縁起でもない。暗い話につながりそうなので、話を変えます。

クジラの尾の部分の肉を「尾羽Ⅱおば」と言います。それをスライスしてゆでて水にさらすと、白くてフワフワした感じになります。それを酢みそなどで食べますが、関西ではこの料理を「オバケ」と呼びます。しつ、しまった！始業礼拝の日にまた、妖しい話をしそ

うになつてしまった。話を変えます。マッコウクジラの腸に出来る石のようなものを「龍涎香Ⅱりゅうぜんこう」と言います。燃やすと白檀という上等なお線香のような香りがするので、香水の材料になります。何年前か前、タイの海岸を散歩していた男の人が、流れ着いた石のような物を集めたところ全部で百キロ。これが龍涎香だったそうで、そのお値段はなんと、三億三千万円！こんなラッキーなこと世の中にはあるのですね。

考えてみれば、地震にも遭わず、戦争にも巻き込まれず、こうして始業礼拝を迎えられただけでも有り難いことなのですが、学校に来るのが辛いとか、心配や不安があるという人は、先生方に遠慮なく相談してください。どうぞ校長室にも来てください。そして、この一週間でゆるゆると、少しずつ調子を取り戻していただく。学校に来ていけば、きっとラッキーなことがあります。